

美術

(1 1) 美術

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実が図られるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 発想や構想について意見を述べ合ったり（表現）、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりする（鑑賞）学習活動など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 美術表現の可能性を広げるため、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディア・ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる工夫 (5) 表現の材料や題材などに、地域の身近なものや伝統的なものを取り上げているか。また、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財を積極的に活用したりすることが適切に示されているか等、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒一人一人が強く表したいことを実現できるよう、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒が自ら表現形式を選択し創意工夫することができるような、自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他教科や小学校等の学習を生かしたり、関係づけたりする学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題への配慮や工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
9 開隆堂	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各題材の「学習の目標」には、身につけたい力が3つの目標として示されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 授業の展開を意識した4ページ構成で、「表現」及び「鑑賞」の学習の関連が重視されており、学習の広がりや深まりに配慮されているとともに、発想・構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力を総合的に働かせることができるよう工夫されている。 <p>〔例〕「スケッチブックから広がる」 (1年 P10～13)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>文章や紙面構成、キャラクターの吹き出し等の問いかけなどにより、主体的に生徒同士で検討したり議論したりして、新たな気づきとともに発想・構想を広げたり、鑑賞を深めたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「江戸の美術の面白さ」 (1年 P26～33)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像や参考作品の視聴や、発想を広げたり鑑賞を深めたりするためのワークシート等の利用ができるよう、各題材には二次元コードが配置されている。 <p>*総数 38</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像メディアを活用した作品例や、映像メディアの特徴を生かした表現方法や発想・構想のポイント、ICT機器を活用した写真の撮り方のポイントなどが掲載されている。 <p>〔例〕「伝えたいメッセージ」 (2・3年 P72～75)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>「絵や彫刻などに表現する活動」や「デザインや工芸などに表現する活動」において、学習の意味や目的が示されており、学習意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「自分の思いを表そう」 (1年 P8～9)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>日本各地のさまざまな郷土の造形や美術館などを取り上げ、美術を通して身近な地域について知ることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「日本の伝統色」 (2・3年 P118～119)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>生徒作品例や制作過程の解説、アイデアスケッチ、生徒の活動写真などが掲載されており、主題を生み出す力を身につけることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「私が見つめた風景」 (2・3年 P10～13)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語や社会、道徳など、他教科等との関連が図られており、美術の学習が深まるよう工夫されている。 <p>〔例〕「目にとまる 心にとまる」 (2・3年 P68～71)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年の巻頭「図画工作から美術へ」では、図画工作科と美術科の学習の関連と発展性について提示されており、生徒が見通しをもちながら学習意欲を自ら高めることができるよう工夫されている。 <p>〔例〕「図画工作から美術へ」 (1年 P2～5)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各題材には、3観点の「目標」が生徒に伝わりやすい簡潔な文章で示されており、見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 題材の初めに、「鑑賞」の問いかけが示されており、表現活動につながる造形的な視点を養いながら、「表現」と「鑑賞」の相互の関連が図られるよう工夫されている。 <p>〔例〕「その人らしさを捉える」 (1年 P22～23)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>題材の初めに、鑑賞図版とともに問いかけが設けられているとともに、1年には「美術鑑賞を広げる言葉」として、鑑賞活動で使われるさまざまな語彙が示されており、生徒が主体的に作品を鑑賞し、自然に対話が生まれるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「今の自分、これからの自分」 (2・3年 P54～59)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 技法動画や全国の生徒作品、「360°写真」、解説動画に加え、書き込みツール等を活用できる「体感ミュージアム」などを利用することができるよう、各題材に二次元コードが配置されている。 <p>*総数 133</p> <ul style="list-style-type: none"> 「端末を活用する」では、表現や鑑賞のさまざまな場面における具体的な活用方法が、「写真を撮影する」では、光やアングル、構図を意識した撮影のポイントについて、「映像を制作する」では、撮影のポイントなどが紹介されている。 <p>〔例〕「端末を活用する」 (別冊「資料」P11)</p> <p>「写真を撮影する」 (別冊「資料」P20～21)</p> <p>「映像を制作する」 (別冊「資料」P22～23)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>1年の各分野の導入では、各分野で大事にしたいことが紹介されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「『絵や彫刻の世界』」 (1年 P12～13)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>日本の絵画や各都道府県の伝統工芸品などが紹介されており、日本の美意識や伝統文化への理解が深まるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」(2・3年 P27～42)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「表現(発想・構想)」の「みんなの工夫」では、中学生が試行錯誤しながら制作に取り組む様子や過程が示されており、自らの制作について主体的に考え、作品を発想できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「メッセージを伝える」 (2・3年 P70～73)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 他教科等と関連する題材には、「〇〇科とのつながり」というマークが示されており、他教科等での学びを意識しながら、表現や鑑賞の活動が行えるよう配慮されている。 <p>〔例〕「エッシャーの敷き詰め模様」 (1年 P55)</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術の学習を円滑に始められるよう、1年の導入ページには図画工作科との接続を意識したオリエンテーションのページが設けられており、3年間の学びを見通し、中学校美術科への期待感が高められるよう工夫されている。 <p>〔例〕「美術の扉を開こう」 (1年 P10～11)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各題材には、資質・能力の3つの柱から、生徒が養う力が「学びの目標」として示されており、見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 題材が「表現」と「鑑賞」を一体的に学習できるよう構成されており、活動の中で発想・構想と鑑賞の資質・能力を総合的に働かすことができるよう工夫されている。 <p>〔例〕「なぜか気になる情景」 (1年 P16～17)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>題材には「表現のヒント」や「作者の言葉」、アイデアスケッチなどが設けられており、発想・構想や鑑賞など、さまざまな場面で生徒がコミュニケーションを取りながら、形や色彩・言葉で思いを伝え合う活動につながるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「わたし自身を見つめて」 (2・3年下 P10～13)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用して、技能を補ったり鑑賞を深めたりするための動画や全国の生徒作品、360度鑑賞できる画像などの資料を参照しながら学習を進められるよう、題材には「学びのはじめに」や「技法を見よう」「資料を見よう」「動画を見よう」などの二次元コードが配置されている。 <p>*総数 102</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用した表現活動を行う題材が設定されているとともに、ICT 機器の活用例や画像のトリミング、写真の撮影方法などが「学びを支える資料」として巻末に示されている。 <p>〔例〕「動きで伝えるメッセージ」 (2・3年下 P42～43)</p>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>1年では「鑑賞」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの領域・分野において、導入ページが設定されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「絵や彫刻との出会い」 (1年 P10～11)</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>日本の伝統文化に関わる題材や、伝統工芸、美術作品、地域に関わる作品をつくる事例などが掲載されており、実際に表現したり鑑賞したりすることで、そのよさを深く理解できるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「屏風、美のしかけ」 (1年 P24～29)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「表現のヒント」や活動の様子が分かる写真などにより、生徒の自主的、自発的な学習意欲を引き出すとともに、主体的に活動に取り組み、発想・構想に関する資質・能力を育めるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕「そのものらしさを形にして」 (1年 P14～15)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 他教科等での学びを生かしたり、関連付けたりした題材や事例が掲載されており、教科等横断的な学習が充実するよう工夫されている。 <p>〔例〕「日本美術と世界の美術の歩み」 (2・3年上 P58～61)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年「ようこそ美術の学びへ」では、小学校での経験や学びで身につけたことを中学校で活用できるよう配慮されている。 <p>〔例〕「ようこそ美術の学びへ」 (1年 P6～7)</p>

2 使用上の便宜

項目	発行者の番号・略称	総ページ	(1)内容別配当の分量						(2)教材・資料等の分量					
			A表現		B鑑賞	その他			総題材数(点数)	生徒作品(点数)	生徒作品以外の作品(点数)	資料(点数)	手立て(発想や構想のヒント・提示箇所)	三重県に関わる記述等
			絵や彫刻など	デザインや工芸	鑑賞(解説を含む)	導入・オリエンテーション	材料と用具・技法	形と色						
9 開隆堂	1年	71	16	16	48	13	6	4	24	55	93	271	35	0
	2・3年	127	32	28	109	10	6	2	39	105	235	231	59	0
38 光村	1年	104	18	12	52	16	24	10	28	66	128	467	41	2
	2・3年	107	22	14	94	9	2	1	34	39	264	173	46	1
116 日文	1年	74	14	14	46	13	12	3	37	88	98	330	47	0
	2・3年上	64	12	16	50	8	4	2	31	80	150	155	46	0
	2・3年下	60	15	10	48	9	2	1	27	50	157	66	39	1

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・A4ワイド判、2分冊構成が採用されている。 ・開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮した糊付けがなされており、1年はタイルの質感を、2・3年はゴッホの筆跡を味わうことができるよう表紙に加工が施されている。 ・題材名と本文にはユニバーサルデザインフォントが採用されており、中学校以降で学ぶ漢字や美術の専門用語にはふりがながつけられている。また、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色や形状、イラストの配色や写真の配置などが工夫されている。 ・人体への影響が少なく、化学物質に敏感な生徒の安全面に配慮し、植物性インキが使用されている。 ・1年では全指導事項の定着を図り、2・3年では2年間を見通して学年間の関連を図るよう構成されている。 ・巻末「学びの資料」には知識や技能を培う資料や、美術館の楽しみ方などの資料が掲載されている。
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・本冊はA4ワイド判、別冊「資料」はA4判の中綴じ製本、3分冊構成が採用されている。 ・鑑賞図版や文字が鮮明に印刷でき、発色のよいコート紙を使用し、堅牢製本でページが開きやすいよう綴じられている。また、2・3年では、鑑賞活動がより深まるよう、日本の絵画を鑑賞するページでは、質感の異なる紙に印刷されている。 ・特別支援教育及びユニバーサルデザインなどの観点から、図版と図版の間を空けたり、罫線を引いたりして、境界を明確に区別できるようにするなどの配慮がなされている。また、文字がやや小さくなる場合は、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・環境への負担が少なく、生徒の健康に配慮した用紙と植物油インキが使用されている。 ・1年では図画工作科等とのつながりを考慮し、2・3年では身につけた資質・能力をさらに深め、歴史や社会との関連に視野を広げるよう構成されている。 ・別冊「資料」には、「描く」「つくる」「写真」「映像」「発想・構想」など、中学3年間で必要な資料がまとめられている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・A4ワイド判、3分冊構成(2・3年を上下2分冊構成)が採用されている。 ・用紙は再生紙(コート紙とマット紙)が使用されており、実感的理解を促して作品を鑑賞するページでは、厚手のマット紙が使用され、高精細印刷が施されている。製本は、丈夫な見返し付きのあじろ綴じで、表紙は耐水性のあるコーティングが施されている。 ・コントラストや文字の背景色など、カラーユニバーサルデザインに配慮されており、題材の領域や分野を示すアイコンにはユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・人体への影響が少ない植物性インキが使用されているとともに、化学物質に敏感な生徒のために表紙の表面加工が施されている。 ・1年は「美術との出会い」、2年は「学びの実感と深まり」、3年は「学びの探求と未来」をテーマとした3分冊構成が採用されている。 ・巻末「学びを支える資料」には発想・構想の手立てや技法、色彩、鑑賞などの資料が掲載されている。

3 その他

	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な課題への配慮や工夫
9 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関連する題材や作家作品、生徒作品などが複数取り上げられているとともに、題材紙面に適宜設けられたコラムや2・3年「学びの資料」では、題材内容とかかわる造形的な取組や作品が紹介され、SDGsを美術の学習と関連付けて学べるよう工夫されている。 ・東日本大震災等の自然災害の後に作られた美術作品や防災の取組が複数取り上げられているほか、「防災のデザイン」では、デザインが防災へ果たす役割について考えられるようにするなど、防災意識を高める工夫がなされている。 ・彫刻刀やのこぎりなどの道具を使う際の注意事項が注意喚起のマークとともに示されている。 ・別冊「資料」には、作品には著作権があることや、写真や映像を撮るときには肖像権や著作権に十分に配慮する必要があることが、注意喚起のマークとともに示されている。
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17の目標のうち、関連する目標の番号が題材の最初のページに示されている。また、2・3年巻頭の「私たちに問いかける美術」では、美術作品に込められたメッセージを考えることができるよう配慮されている。 ・東日本大震災等の自然災害の後に作られた美術作品や防災の取組が複数取り上げられているほか、「防災のデザイン」では、デザインが防災へ果たす役割について考えられるようにするなど、防災意識を高める工夫がなされている。 ・彫刻刀やのこぎりなどの道具を使う際の注意事項が注意喚起のマークとともに示されている。 ・別冊「資料」には、作品には著作権があることや、写真や映像を撮るときには肖像権や著作権に十分に配慮する必要があることが、注意喚起のマークとともに示されている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関わるテーマが「環境と未来」「平和・人権・共生」「安全な生活」「伝統文化」として設定されており、持続可能な社会について考えられるよう工夫されている。 ・非常口のピクトグラムや震災からの復興を願った展示の様子などが掲載され、防災への考えを深められるよう配慮されている。 ・用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどが必要な場面において喚起するマークが付されており、安全に配慮する態度を養うことができるよう工夫されている。 ・「教科書の使い方」において、「作品について注意しよう」が示され、作品の著作権等についての注意や、撮影における肖像権の注意が喚起されている。